

筋肉留学

最初にお断りしておくが、これを執筆している当の本人は至って真面目である。筋肥大には十分な量のタンパク質の摂取が必要不可欠であるということは周知の事実であるが、私の場合はもはやストレスまでも筋肉に昇華させていたといえよう。阿部先生の出身校でもある山形南高校で、青春というものの大半をボクシングに費やした筆者だが、練習後の筋トレだけは嫌いだった。そんな私をここまで筋トレに駆り立てたフランスには心からの賛辞を贈ろうと思う。

マクロン大統領の大規模改革に対する抗議デモが全国各地で相次いだ。大学の教育制度もその対象の一つであり、日本のような選抜制を導入するということがあった。レンヌ第二大学では、学生たちによる長期的な大学の閉鎖が実行され、私たち留学生にとっては甚だ迷惑なものとなった。ただ、現地学生らのバイタリティに富むその行動力にはやはり目を見張るものがあり、受験戦争とまで称されるような日本の入試制度とは違った、バカロレアに代表される仏の入試制度には個人的に支持していた点もあり、初めのうちは興味深く観察する心境にあった。

しかし、夜な夜な祭り半分で大学近辺で騒いでは近隣に迷惑をかけたり、学生生活を続けたいがためにわざわざ学校を閉鎖してまで自らの権利を主張しているにも拘らず、平気で公共物である大学校舎を汚したりする様は、言語道断、愚かとしか正直言いがなかった。

そんな怒りにも似たストレスというものを力に変え、トレーニングをし、タンパク源には仏の象徴である鶏を食らうことで、ボクシングの体重調整でやせ細っていた頃とは異なり、身体が少しずつ目に見えて進化、肥大していくのは実に気分が良かった。この留学で最も身に付いたのは仏語ではなく、紛れもない筋肉であり、リベンジマッチはこれからである。

(学部4年) 村岡 拓也



写真1：友人の誘いでデモ行進に参加



写真2：学生総会にて大学の閉鎖を決める様子